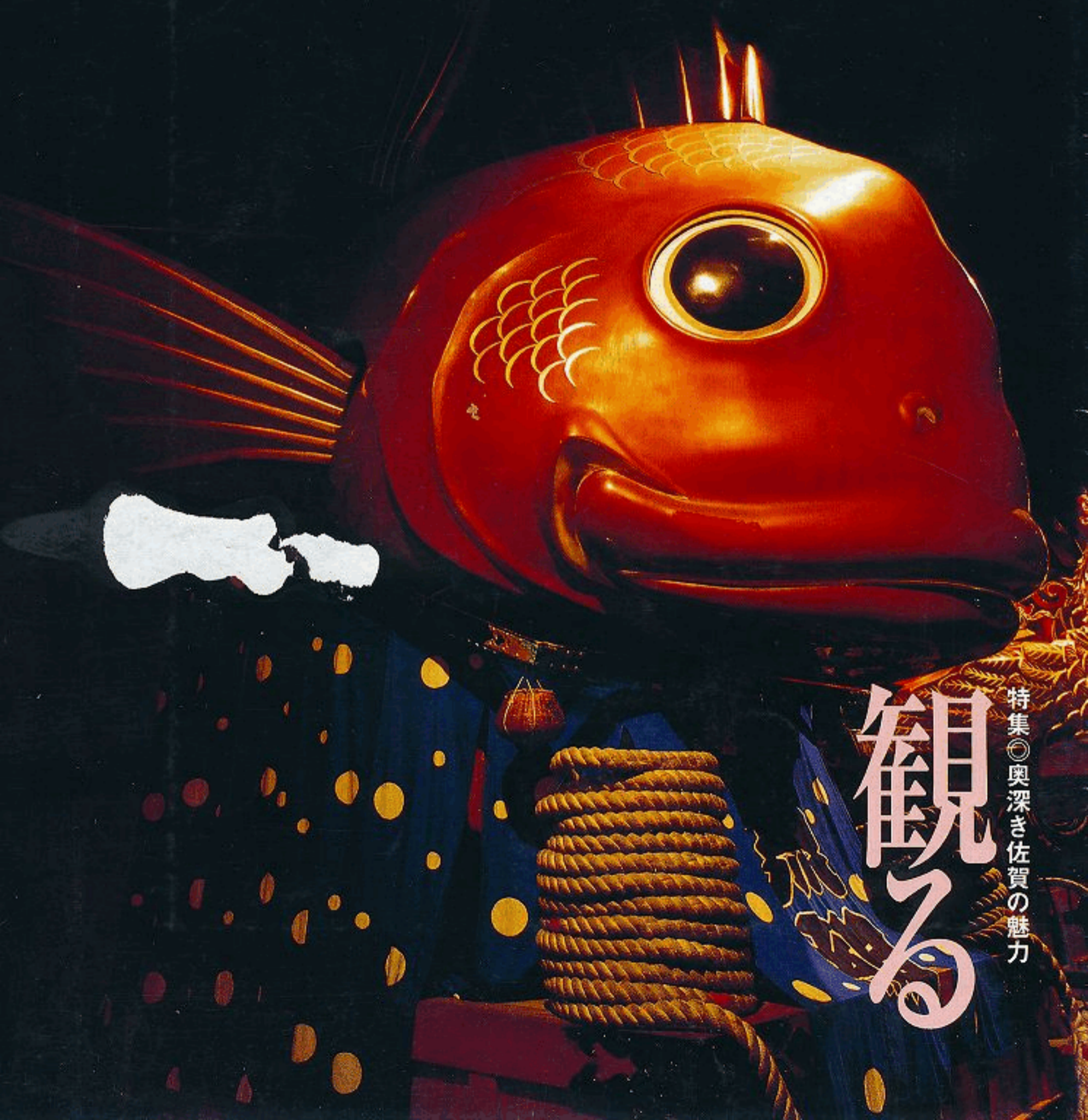


1998.autumn.vol.14 季刊「佐賀」

Zanza



観る

特集◎奥深き佐賀の魅力



■星空を観測する太良観測所



■初めて見る月の表面に子供たちも興奮



■星空のロマンは会員を皆、とりにこする

秋は星を楽しむ 格好の季節

ビルの少ない田舎に住む特権だろうか。夜中に夜空を仰ぎ観ると、星の美しさに圧倒されることがある。宝石の輝きなどといった、モノの例えにあてはまらないきらめきが、心をくすぐる。

「あれはサソリ座、あれは北極星?」。星の二つひとつをたどりながら、不思議に心が癒やされているのに気付く。宇宙という空間が醸し出す不思議さに酔いしれる。

とりわけ秋は夜空が美しい。きらめくような夏が終わり、やってきたセンチメンタルな秋。そんな季節に星は何だかよく似合うのだ。

都会では街灯やビルの明かりに邪魔されて満天の星空を楽しめないと聞く。いつも欲しいとき星のきらめきを楽しむことができる佐賀の地は、なんと恵まれた自然の中にあるのだろうか。秋の夜長、存分に美しい星空を楽しみたい。

星空の素晴らしさを 伝えたい

佐賀の美しい星空に魅せられたメンバーがいる。佐賀天文協会の面々だ。星空の神秘性を追って地道な活動を続けていたが、十年がかりでためた資金を元に、今年春、太良町に自前の天文観測所を作った。

約三千三百平方メートルの敷地に、直径二・五メートルの天体ドームと、口径二十六センチの望遠鏡を備えた本格的な観測所だ。この太良の地に観測所を構えた理由は、ネオンなどの

観る

【特集】●奥深き佐賀の魅力

夜空にきらめく 満天の星

闇の中に広がる無数の星。

眺めるだけで気持ちが浄化されてゆく。

■佐賀天文協会撮影の天体写真



■星空は何回見ても見飽きない

■見上げれば辺り一面輝く星空。おとぎ話が生まれそうにロマンチック

佐賀の素晴らしい星空で楽しみたい。

八日にかけて極大になる。雄大な宇宙のショーを、

星によるしし座流星群が、十一月十七日から十

信じられる気がする。今年にはテンペル・タトル彗

流れている。おとぎ話も伝説もここでは本当に

音のない闇の世界に広がる美しい星。天の川が

太良の観測所でゆつたりと星空を眺めてみた。

でもらおうという試みだ。

てもらおうという試みだ。

太良の観測所でゆつたりと星空を眺めてみた。

音のない闇の世界に広がる美しい星。天の川が

流れている。おとぎ話も伝説もここでは本当に

信じられる気がする。今年にはテンペル・タトル彗

星によるしし座流星群が、十一月十七日から十

八日にかけて極大になる。雄大な宇宙のショーを、

佐賀の素晴らしい星空で楽しみたい。

た小さいころの思いもよみがえって来るんですよ。

「星空を覗いていると心が落ち着くんですよ。」

自分が宇宙の一部になれたようで、わずらわし

いことから解消される。自然にたっぷり浸ってい

た小さいころの思いもよみがえって来るんですよ。

会員は週二回、佐賀市コミュニティセンターで

ボランティアとして星空の解説をし、太良観測

所も年に四回ほど一般に公開している。佐賀の

星空の素晴らしさを少しでも多くの人に知っ

てもらおうという試みだ。

週末ともなれば、会員が三々五々に集まってくる。

望遠鏡をのぞき、シャッターを押す人もいれば、

観測所の屋根に寝転がって、身体全体で星を感

じる人もいる。思い思いに星空を楽しんでいる。

「星空を覗いていると心が落ち着くんですよ。」

光が少なく、観測に適した暗さがあること。次

に空が開けていること。多良山系は、標高が高

くなる霧が出やすいことなどを考慮して、標

高三百十メートルの現在の地に決定した。

「ダストがあれば光の乱反射が起こり、観測

が難しくなります。ダストが少なくなる標高百

メートル以上の候補地の中で、ここが最適の土

地でした」と天文協会会長の鶴田正敏さん。



■天文協会会長の鶴田正敏